# ミュンスター大学ジョイントシンポジウム出張報告書

理学研究科理学専攻　生物無機化学研究室
博士後期課程 1 年　伊藤史哉

- **出張先**

  ドイツ・ミュンスター大学（Westfälische Wilhelms-Universität）

- **出張期間**

  2023 年 5 月 12 日から 19 日

- **出張目的**

  ミュンスター大学で開催された 4th IRTG ジョイントシンポジウムへ参加し、新規共同研究の種となる情報を収集した。両大学の先生方の講演を拝聴するとともに、ポスター発表者として参加し、さらにミュンスター大学の教授 2 名との対面ディスカッションを行った。

- **概要**

本ジョイントシンポジウムは、名古屋大学（IRCCS, GTR）とミュンスター大学（IRTG）の二大学間連携に基づき毎年共同開催されており、今回は名古屋大学の先生方と学生がミュンスターへ赴いた。両大学の化学分野における交流を目的としており、具体的な新規共同研究創出を目指した交流が行われた。シンポジウムは 2 日間かけて開催され、初日は講演およびポスター発表、2 日目は対面ディスカッションという日程であった。

初日は他の国際学会と同様の交流の場が設けられたが、本シンポジウムの特徴は 2 日目の対面ディスカッションにある。共同研究の創出を念頭に、30 分～1 時間かけて、異大学の先生と学生が二者あるいは三者で直接ディスカッションする場であり、他の一般的な国際学会では得ることが難しい貴重な経験をすることができた。また、シンポジウムの前後には学生同士の交流も行われ、互いの文化・価値観を知る良い機会となった。

- **所感**

シンポジウム初日は、まず両大学の複数の先生方による講演を拝聴し、各研究室の主な研究成果を学びつつ、新たな共同研究の種となるアイデアを模索した。有機化学が主であったが、計算化学やより自身の分野に近い生物系の研究もあり、ミュンスター大学の化学を具体的に知ることができた。自身が普段参加している学会では、有機合成や計算を主軸とした発表に触れることが多くないため非常に興味深かった。ただし一方で、分野が大きく離れた研究室との共同研究を着想することは非常に難しいと感じた。

この日、自身も発表者として参加したポスター発表セッションでは、学生各人が現在行って

いる研究に関して具体的な情報交換を行った。ランチタイムからシームレスに続くセッションで開かれ、和やかな雰囲気のもとで意見交換することができた。先述の通り参加者の多くは有機化学を専攻しており、異分野の研究者から意見を頂く絶好の機会であった。自身の研究に対する鋭い意見を頂くとともに、他の興味深い研究を知る良い経験になったと考えている。設けられた時間が長くなく、他者の発表をあまり聴くことができなかったので、共同研究を行う際や年末の交流会でさらに深く知ることが出来ればと思う。

2 日目には、指導教員である荘司長三教授とともにミュンスター大学の教授 2 名との三者ディスカッションを行った。このディスカッションは具体的な共同研究を生み出すことを目的としており、自身の現在の研究に関して伝えるとともに相手の研究室の技術で何ができるかを深く議論した。他の国際学会でこのような場を設けることはハードルが高いため、今回非常に貴重な経験ができたと考えている。ディスカッションを行った両研究室はともに有機合成を軸としているが、特にタンパク質を標的とした低分子医薬の開発を行っている研究室は自身の研究との親和性が高いと感じた。分子設計に関するアイデアや in sillico スクリーニングのアイデアは非常に参考になり、是非今後の共同研究に繋げていきたい。

シンポジウムの前後では、先生方と分かれ学生同士の交流を行った。ミュンスター大学の学生たちと市内の各地を巡り、互いの国や地域の文化に加え、海外の研究室の雰囲気を知ることができた。初の海外渡航のため、触れるものすべてが新鮮で、気候もシステムも全く異なる海外での生活を直接感じることができたのは非常に良かった。また、英語でのコミュニケーションがとれたことは自信になった一方、うまく言葉が出てこないことや聞き逃しが多いと感じたため、今後も練習に努めたい。

非常に恵まれた環境で海外渡航と国際交流を経験できたのは、大変ありがたく、さらに面白い研究成果や新たな共同研究に繋げられるよう今後とも精進していきたい。